

## 平成 2 2 年 度 全 国 麦 作 共 励 会 受 賞 者 名 簿

### ・農家の部

賞 名	氏 名	住 所
農 林 水 産 大 臣 賞	おおかわ やすのり 大 川 泰 範	えひめけんいよくんまさきちようきたがわら 愛媛県伊予郡松前町北川原 357  (中国四国ブロック)
全国米麦改良協会会長賞	とくなが ゆきお 徳 永 幸 雄	さがけんさがしもろどみちよおあざとくどみ 佐賀県佐賀市諸富町大字徳富 1753  (九州ブロック)
全国農業協同組合 中央会会長賞	みたに よしかず 三 谷 吉 一	ほっかいどうたきかわしえべあつちよう 北海道滝川市江部乙町 ひがし ちようめ 東18丁目  (北海道ブロック)
全国農業協同組合 連合会会長賞	たなか しげたか 田 中 茂 隆	みえけん 三重県いなべ市員弁町畑新田 570 - 1  (東海・近畿ブロック)
日本農業新聞会長賞	はしもと てつお 橋 本 哲 郎	ふくいけん 福井県あわら市田中々 33 - 9 - 1  (東北・北陸ブロック)

### ・集団の部

賞 名	集 団 名	所 在 地
農 林 水 産 大 臣 賞	みどりきんだいがかいのうしゅうだん 実取近代化営農集団  代表者 もり しゅういち 森 修一	とちぎけんおたわらしみどり 栃木県大田原市実取 1071  (関東ブロック)
全国米麦改良協会会長賞	とくまるせいさんくみあい 徳丸生産組合  代表者 わたなべ しん 渡部 伸	えひめけんいよくんまさきちようとくまる 愛媛県伊予郡松前町徳丸 628 - 2  (中国四国ブロック)
全国農業協同組合 中央会会長賞	ゆうげんかいしゃ 有限会社 FAかみいちば  代表者 がわい かおる 河合 馨	ぎふけんくじょうしみなみちようはくさん 岐阜県郡上市美並町白山 369  (東海・近畿ブロック)
全国農業協同組合 連合会会長賞	のうじくみあいほうじん やまぶきえいのうくみあい 農事組合法人 山吹営農組合  代表者 いちまる しんいち 一丸 晋一	おおいたけんくにさきしくにさきまちほる 大分県国東市国東町原 1844  (九州ブロック)
日本農業新聞会長賞	えいのうくみあい 営農組合 ひばり野ファーム  代表者 こもり よねじ 小森 米二	とやまけんくるべしうなづきまちあいまとしん 富山県黒部市宇奈月町愛本新 403  (東北・北陸ブロック)

## 平成22年度全国麦作共励会 中国四国農政局管内受賞者の概要

農家の部 農林水産大臣賞受賞「大川 泰範」氏の概要

氏名	おおかわ やすのり 大川 泰範 (43歳)		
住所	えひめけんいよぐんまさきちょう 愛媛県伊予郡松前町		
経営耕地面積	12.8ha (うち麦作付面積: 12.8ha)		
麦種(品種)	はだか麦: 12.8ha (マンネンボシ: 12.8ha)		
単収	397kg/10a (県平均 268kg/10a)		
1等比率	100%	労働時間(hr/10a) (乾燥調整除く)	3.6時間 (3.3時間)

### <取組概要>

大川氏は、43歳の若手経営者で、平成12年に就農、平成16年から経営主となり、妻と父母の4人で水田1,284a(内借地1,134a)の経営を行っている。

ここ数年、はだか麦に対する実需者の需要が高まっていることから、これに対応するために、就農時の約800aから1,284aとその作付け面積を拡大し、23年産麦では、1,500aと更なる規模拡大を図る計画である。

そのため、実需者の求める高品質麦の安定生産と規模拡大のための省力化との両立に向け、日々、自己研鑽に努めている。

特に、水稻収穫(9月中旬~10月中旬)から、麦播種(播種適期11月10日)まで期間が短いため、耕起、播種、除草剤散布、溝切り等の秋作業が規模拡大の一番のネックとなることから、排水性の良いほ場に集約することにより、通常、2回実施する耕起作業を1回に省略することで、作業の効率化を図っている。更に、23年産からは、耕起前に稲株を刈り払うフレールモアを導入し、出芽・苗立ちの安定化を図っている。

また、大川氏が中心となり、22年5月に集落の若手農業者6名で「北川原担い手組合」を設立し、組合員でお互いに協力することにより、これまで2工程にならざるを得なかった、播種・除草剤散布と溝切り作業を、1工程で実施している。

管理作業においては、一発肥料を導入し、中間追肥の省略することにより、踏圧、除草剤散布、中間追肥(1回目)など、秋作業・収穫作業について作業の集中する1月の作業の省力化している。更に、23年産麦からは、新たな除草剤を導入し、2月の除草剤散布作業を省略する防除体系の実証を予定している。

収穫・乾燥作業においては、5条刈りの大型コンバインを導入するとともに、出荷作業の省力化のため、全量フレコン出荷を行っている。

こうした徹底した省力化の取組により、県平均の約1/3の3.6時間/10aと大幅な省力の実現するとともに、排水性の向上、土づくり、適期作業等の基本技術を励行することにより、高単収(例年、県平均の130~150%)、1等100%と高品質麦の多収生産を実現している。

大川氏は、耕起作業の省力化、一発肥料の導入、フレコン出荷、大型機械の導入等、徹底した省力化により、高品質・多収を実現しつつ、**平成12年の就農時の約8haから、約13haまで大幅な規模拡大を図ってきた。**

また、さらなる規模拡大を図るため、**地域の若手農業者とともに「北川原担い手組合」の設立、新たな除草体系の確立**など、近隣農家・試験研究機関等とも連携し、**新たな取り組みを積極的に**行うことにより、更なる経営発展を目指す。

### 〔秋作業の効率化〕

水稻収穫(9月中旬～10月中旬)から、麦播種(播種適期11月10日)まで期間が短く、耕起、播種、除草剤散布、溝切り等の秋作業が規模拡大の一番のネックとなっている。

#### 取組

- ・通常耕起は2回実施するが、当地域は排水性がよいため1回の耕起で播種に適した碎土となり、適地適作による省力化が図られている
- ・ほ場を集約することで移動ロスがなくほ場区画が小さい当地域でも労働時間の短縮は図られている。

### 【新たな取り組み】

- ・23年産からは、耕起作業を1回に省力しつつ、さらに安定的な播種、出芽率を確保するため、**耕起前に稲株を刈り払うフレールモアを導入。**



フレールモア実施ほ場(左)、未実施(右)

#### 取組

- ・家族労働内で役割を分担することで、各資材の補充、播種、防除といった作業の一連化を可能としている。
- ・溝切り用管理機により効率的な作業
- ・除草剤散布は、ブームスプレーを活用し効率的かつ安定的効果の実践している。

### 【新たな取り組み】

- ・人手不足、播種時期の降雨により、播種時期が遅れる年があったため、氏が中心となり、22年5月に集落の若手農業者6名で**「北川原担い手組合」を設立**し、これまで2工程にならざるを得なかった、播種・除草剤散布と溝切り作業を、**組合員でお互いに協力**することにより、1工程で実施。

これらの取組により、秋作業を効率的に実施することができ、適期播種、安定した出芽・苗立ちを確保。

### 〔収穫・調整作業の効率化〕

20年産までは、4条刈りのコンバインで収穫し、紙袋出荷をしていたが、人手、収穫時間ともにかかるため、適期収穫が困難な年があった。

#### 取組

- ・21年産麦から、**5条刈りの大型コンバインを導入**。また、併せて運搬を**全量フレコン**に変更。

フレコンでの運搬となり、荷詰め作業、運搬作業が効率化され、省力化。また、大型コンバインの導入により収穫時間の短縮が図られ、品質確保のために一番重要な降雨前の収穫が可能となり、高品質麦の安定生産が可能となった。



フレコンスケール

## 〔管理作業の省力化〕

取組

・**一発肥料の導入による中間追肥の省略**することにより、踏圧、除草剤散布、中間追肥(1回目)と、秋作業・収穫作業について作業の集中する1月の作業の省力化。

・また、**踏圧作業用のトラクターは、作業時間を縮減するため、ラジアルタイヤを使用**するなどの工夫をしている。



【踏圧用ラジアルタイヤ】

### 【新たな取り組み】

・近年、冬期に降雨が多く、こうした取組にも関わらず踏圧等の作業が安定的に実施できない年があることから、現在、除草剤については、播種期のサターンバアロ、2月のハーモニーで対応しているが、昨年度の県の実証により、播種時期に薬剤効果の長いボクサーを導入することにより、2月のハーモニーを省略できることが実証されており、**23年産からは、約6haで、ボクサーの導入により、2月の除草材散布を省略する体系を実施。**

▶ 中間追肥、除草剤散布作業が省略可能となり、更なる省力化が可能となるとともに、確実な踏圧の実施が可能となり、安定多収栽培を実現。

## 〔高品質麦の安定生産〕

取組

・以前は、地区外にも作付ほ場を拡大していたが、**排水性の良い当該地区にほ場を集約**することにより、排水性を確保。

・**稲わら、麦わらの全量すき込み**や**土壌改良材の施用**による土づくり

・遅れ穂の発生を抑制し、熟気の均一化を図るため、**条間を15cmに設定**

・除草剤の適期散布を徹底するとともに、収穫前に**カラスノエンドウの抜き取りを徹底**

・農協、県指導所等の関係機関と連携し、**発生予察・立毛調査に基づき、防除・収穫等、各作業の適期実施**

など、取組 ~ による徹底した省力化を図りつつも、「排水性の向上」「土づくり」「適期作業」等の基本技術等の多収・品質向上に向けた取組についてもしっかりと実施。

▶ これらの取組により、毎年、**高単収(県平均の130~150%)、1等100%**と高品質麦の多収を実現している。

こうした取組により、高品質・多収生産を実現しつつ、

大川氏の作業時間は、**県平均の約1/3の3.6時間/10aと大幅な省力化を実現。**

これにより、**就農時の約8haから約13haへ大幅な規模拡大、平成23年産は15haに拡大予定。**

## 平成22年度全国麦作共励会 中国四国農政局管内受賞団体の概要

### 集団の部 全国米麦改良協会会長賞受賞「徳丸生産組合」の概要

氏名	徳丸生産組合（代表者 渡部 伸） <small>とくまるせいさんくみあい わたなべ しん</small>		
住所	愛媛県伊予郡松前町 <small>えひめけんいよぐんまさきちょう</small>		
経営耕地面積	49.1ha（うち麦作付面積：49.1ha）		
麦種（品種）	はだか麦：49.1ha（マンネンボシ）		
単収	323kg/10a（県平均 268kg/10a）		
1等比率	100%	労働時間(hr/10a) （乾燥調整除く）	7.3時間 （7.3時間）

#### <取組概要>

徳丸生産組合の位置する松前町は、重信川下流域で、肥沃で排水性が良く、古くからはだか麦の適地と知られている。

しかし、松山市近郊という立地条件から、近年は、混住化、兼業化に加え、農家の高齢化が進んでおり、農地の維持管理が課題となっていた。

このような状況下、当該地域では、集落全戸加入による「徳丸生産組合」を設置し、効率的な作業体系の確立や基本技術を中心としたきめ細やかな作業により、高い土地利用率と高品質はだか麦の安定生産を実現している。

当該組合では、49.1haの大規模面積において高品質麦を安定生産するため、各作業の適期実施に努めており、このため、採種ほ場と一般麦を4つにブロック分けし、少人数のグループで作業することにより、効率的な作業体系を確立している。

また、大規模経営を維持するためには、オペレーターを確保することが重要であることから、毎年、定年退職者を中心に2名程度新たなオペレーターを採用しており、常時24人程度のオペレーターを確保している。

栽培面では、稲わら・麦わらの全量すき込み、弾丸暗渠・排水溝の設置の徹底による排水性の確保、発生予察・立毛調査に基づく防除・収穫作業等の適期実施など、きめ細やかな作業を行うことにより、高単収（県平均の130%）、1等比率100%と高品質麦の安定生産を実現している。

こうした高品質麦の生産実績から、当該組合では、県内の種子生産の36%（9.1ha）を任されており、毎年、種子合格率100%を達成している。

こうしたきめ細やかな取組により、地域農家の確たる信頼を得て、組合への麦作業の委託面積は増加しており、平成9年の約30haから、22年産は49haと大幅な規模拡大が図られている。

これにより、集落の冬作物の土地利用率は麦、レタス等の園芸作物で、ほぼ100%と遊休農地の解消が図られている。

23年度には農業生産法人へ移行する計画であり、更なる地域農業の発展に努めるとともに、はだか麦は、販売予定数量を購入希望数量が大幅に上回っており、実需者からの増産要望が大きい状況にあることから、今後とも組合員一丸となって、はだか麦産地の維持・拡大に努める。

当該地域のある松前町は、重信川下流域で、肥沃で排水性が良く、昔からはだか麦の適地と知られている。しかし、松山市近郊であることという立地条件から、近年は、混住化、兼業化に加え、農家の高齢化が進み、農地の維持管理が課題となっていた。

このよう状況下、当該地域では、集落全戸加入による「徳丸生産組合」を設立し、効率的な作業体系の確立や基本技術を中心としたきめ細やかな作業などにより、**高い土地利用率と、はだか麦の高品質栽培を実現**している。

**（特徴）**

49haの大規模面積において高品質麦を安定生産するためには、各作業を適期に短期間に実施することが重要。

このため、採種ほ場と一般麦を**4つにブロック分けし、少人数のグループで作業**することにより、効率的な作業体系を確立。

適期播種・適期収穫の徹底が図られ、品質・収量の安定化。

**（特徴）**

当該地域は、都市近郊という立地条件を活かして古くから路地野菜・花き等との複合経営が行われてきた。

しかし、農家の高齢化に伴い、路地野菜・麦ともに面積が減少し、遊休農地が増加。

このため、**組合が麦栽培の主要作業を担うことにより、農家は冬野菜に専念**することができる。

利益率の高い野菜等に専念することにより、**個別農家の経営の安定、遊休農地の解消等、地域の活性化が図られる。**

**（特徴）**

大規模経営を維持するためには、適正なオペレーターを確保することが重要。

当該組合では、常にオペレーターを24名確保。**毎年、定年退職者を中心に、2名程度確保**している。

適正な人数のオペレータを確保することにより、**持続可能な農業経営を実現。**

さらに、当該地区には、**大手農機メーカーがあり、当該メーカーの退職者をオペレーターに雇用。**

作業後の機械の清掃はもとより、メンテナンスを適正に行うことにより、**機械の更新時期の延長による農機具費の低減**が図られている。



収穫前の機械の一斉点検

### （経営上の特徴）

オペレーターの作業労賃を、時間給から、面積当たりの出来高払いにすることにより、作業効率が大幅に向上。

作業効率の向上により、**作業労賃の削減**が図られるとともに、**機械の効率的な利用**が図られ、**農機具費の低減**につながる。さらには、作業時間の短縮により、**適期作業の徹底**が図られた。

播種は右回り、収穫は左回りとするなど、**機械作業の体系を工夫**。

個人で行う手刈り作業が無くなり、省力化が図られた。

**種子生産**を行うことによる粗収益の向上。

これらの取組により、**10a当たり粗収益63,073円、所得率42.2%と利益率の高い農業経営を実現**。

### （栽培の特徴）

・ 稲わら、麦わらの全量すき込みによる**土づくり**

・ 元々、排水性の良い土壌であるが、弾丸暗渠、排水溝の設置の徹底により**排水性の確保**

・ JA、農業指導所等と連携のもと、発生予察・立毛調査に基づき防除、収穫等、**各作業の適期実施**

・ 遅れ穂の発生を抑制し、熟期を均一にするため、**条間を20cmに設定**

・ ほ場巡回によるカス/エンドウの抜き取りを徹底し、異種穀粒の混入防止

・ 品質低下が著しいほ場の**区分出荷**



（播種作業）

など、きめ細やかに作業をおこなうことにより、**高単収(例年、県平均の約130%)、1等100%と高品質麦の安定生産を実現**。

こうした高品質麦の安定生産の実績がかわれ、**県内種子の36%(9.1ha)を当該組合で生産**、23年産は10.8haに拡大予定。毎年、種子合格率100%を達成している。

こうしたきめ細やかな取組を行うことによって、地域農家の確たる信頼を得ることにより、組合への麦作業の委託は増加し、平成9年の30haから、22年産は**49haと大幅な規模拡大を実現**。

これにより、集落の冬作の**土地利用率は、麦、レタス等の園芸作物で、ほぼ100%と遊休農地の解消が図られた**。

また、地域の麦作の維持を図ることにより、**実需者ニーズの高い、はだか麦の生産拡大に大きく貢献**している。

(参考)

## 平成22年度全国麦作共励会の実施概要について

### 1 趣旨

麦の生産に当たっては、麦作農家の生産技術水準の向上と経営の改善を通じて、生産性及び品質の向上並びに流通の合理化を推進することが重要である。このため、全国麦作共励会を開催し、生産技術の向上あるいは経営改善の面から、創意工夫がみられ、先進的で他の模範となる麦作農家及び麦作集団を表彰し、その業績を広く紹介する。

### 2 主催者

全国農業協同組合中央会  
社団法人 全国米麦改良協会

### 3 参加数

農家の部	43
集団の部	55
計	98

### 4 選考の経緯

- (1) 9月、県毎に1位を選出。
- (2) 10～11月にブロック(全国6ブロック)毎にブロック1位を選出。
- (3) 12月22日に行われた全国麦作共励会中央審査委員会(委員長 農業・食品産業技術総合研究機構理事 佐々木 昭博)において、(2)のブロック1位を対象に審査を行い、各受賞者を決定。